

平成29年度 事業報告書

ヘルパーステーション大慈

1. 《基本方針》

介護を提供するプロとしての意識を十分に持ち、要介護者等の心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じ、自立した“安心・安全な生活”を営むことができるよう生活全般に渡る援助を行う。関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービス機関との綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

2. 《長期目標》

- ①ゲストに安心・安全・清潔・安らぎのある環境を提供する
- ②職員は法令を順守し、人としての尊厳を守り、敬愛の念をもって行動する

3. 《中期目標》

職員が安心して前向きに働くことのできる環境と、一人一人が主体性を持って仕事に取り組める職員集団を目指す。

4. 《年度目標》

※ リスクマネジメントの管理においては特定施設入所者生活介護大慈吉祥園に準ずる

① 情報の共有を徹底させる

共有に関する自己チェックシートは（1回/2ヶ月）実施できている。正解率も次第に高くなってきている。開始直後は正解率50%ほどであったが、間違いを修正し再提出することで最終的には全体正解率が82%まで上がってきた。ルールブックの作成も進み、14項目までできている。今後も生かせるようにしていきたい。統一した記録に関しては、記録する練習を実施し、各自個別で指導にあたっている。次年度も継続して実施していきたい。ゲスト・ご家族とのコミュニケーションに関しては、常に意識し、相談事項、報告などで連絡を取り、記録に残すように努めている。また、コミュニケーション強化週間を設け、担当とゲストとの信頼関係をつくるきっかけづくりになっている。

② コミュニケーション技術の向上

ゲスト・ご家族とのコミュニケーションに関しては、常に意識し、相談事項、ご報告報などで連絡を取り、記録に残すように努めている。また、コミュニケーション強化週間を設け担当とゲストとの信頼関係をつくるきっかけづくりになっている。不適切ケアについて、特に気を付け常々話し合いをもっている。グループワークや社会人としてのマナーチェック、接遇自己チェックを行い、自身の行動の振り返りを行っている。パート職員を含め対応の仕方や意識の持ち方など、今後も全体的に継続してやっていく必要がある。

6. 《職員体制》

管理者 1名	サービス提供責任者 7名（訪問介護員兼任）
--------	-----------------------

7. 《総括》

決めたことを徹底させることはまだまだ不十分で、センサー忘れなどにより、事故を未然に防げなかったことも反省点の一つである。情報の共有に関しては、報連相、3日間の申し送り、記録の仕方など、日々の業務の中で取り入れてきた。常に情報の共有を伝えてきたことで職員の意識は高くなり、一定の成果は見られた。しかし、業務内容だけではなく、介護の知識や技術、緊急時の対応など介護士としての共有すべきことに関しては、未熟さを感じる。新人が多い職場ではあるが、介護福祉士も今年度3名増やし、あと2名の達成で全員が資格を持つことになる。養護の特性から知識・技術において経験することは少なかったこともあるが、特定で52名のゲストが介護保険を利用し看取りのゲストも多くなった。知識・技術だけでなく、適応能力も学んでいく必要もある。また、コミュニケーション技術の向上に向けて、傾聴・受容・共感の技術の研修など、会議や日々の業務の中で取り入れている。

今後も継続させ、ゲスト・ご家族からの信頼関係の構築に努めていきたい。